

鶴岡市障害者 地域自立支援協議会だより



【もくじ】

表紙 つるおかひょうげんの花**2026**の様子 **P2**.障害者虐待防止研修会の開催
P3~5.部会活動報告 **P6**.インフォメーション **P7**.リレートーク（アムザ）

障害者虐待防止 研修会

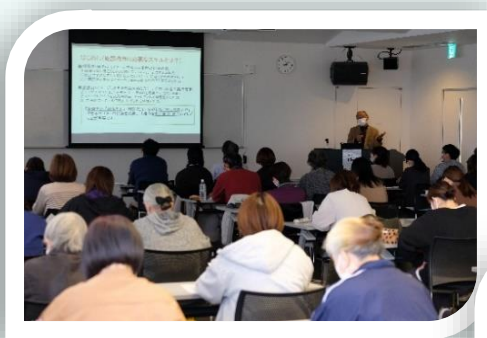
令和8年2月27日(金)、障害者虐待防止に関する理解を深めることを目的に、「障害者虐待防止研修会」を開催し、障害福祉サービス事業所の職員約50名が参加しました。

今年度の研修では「スピーチロック」をテーマに、一般社団法人山形県社会福祉士会顧問の鈴木一成氏を講師にお招きし、ご講演を頂戴しました。スピーチロックとは、「ちょっと待って」「今はだめ」など、日常的に使われがちな声かけによって相手の行動を制限してしまう関わり方のことで、支援の現場において無意識のうちに行われてしまう可能性があるものです。

講演では、日々の支援の中で使われがちな言葉かけの例や具体的な場面をもとに、利用者の尊厳や主体性を尊重した関わり方について分かりやすく解説していただいたほか、演習として近くの席同士で意見交換をする場面もあり、日頃の利用者様への関わり方はどうだったのか、他事業所ではどんな関わり方をしているか等を話し合う時間もあり、言葉の持つ影響力について理解を深めました。

参加者からは、「何気ない一言が相手の行動を縛っていることに気づいた」・「相手の意思を尊重する声かけを意識したい」といった感想が寄せられました。また、支援の現場では安全確保や円滑な運営とのバランスも求められるため、単に言葉を控えるのではなく、相手の気持ちに寄り添いながら代替となる伝え方を工夫することの重要性も共有されました。

障害者虐待は、身体的な行為に限らず、心理的な側面も含まれます。今回の研修を通じて、一人ひとりが自らの言動を見つめ直し、利用者の尊厳を守る支援のあり方について改めて考える機会となりました。今回の研修で得た気づきを今後の支援に生かし、利用者一人ひとりの尊厳を大切にされた支援の実践につなげることで本市の障害福祉サービスの質が向上し、誰もが住みやすい地域となることを期待します。



左:鈴木一成氏
上:研修会の様子

演習として
近くの席の方と意見交換



令和7年度

部会活動報告

○相談支援部会

相談支援部会では、障がいのある方の自立生活と、本人・家族が安心して生活できる地域の実現に向けて、①地域課題の抽出・検討、②支援ネットワーク構築、③地域の相談支援専門員の資質向上を目的に取り組みを実施しました。

【相談支援部会・研修会・情報交換会の実施状況】

(1) プロジェクトチームによる地域課題の解決に向けての協議

① 拠点チーム 1回(6/24)

(緊急時受入れ調整の現状と課題、登録事業所数確認、事業所拡大に向けた取組みについて)

② 児童チーム 1回(5/20)

(アセスメントや担当者会議等、各関係機関との連携について)

(2) 全体会

・相談支援部会(4/15、7/18、11/19、2/5、3/19)

(3) 他機関、他分野との連携 *数字は参加事業所数

・健楽園地域包括支援センター担当圏域内

介護支援専門員合同研修会(10/17)

※障害福祉制度や障害者相談支援センターの業務内容等についての説明・情報交換

居宅介護支援事業所3、小規模多機能型居宅介護事業所1、地域包括支援センター1

・住まいに関する情報交換会(11/19) 共同生活援助事業所5、相談支援事業所10、鶴岡市

・入退院支援に関する情報交換会(2/5) 県立こころの医療センター、相談支援事業所11

(4) その他

① 令和7年度 相談支援部会 活動評価および次年度に向けたアンケートの実施

相談支援専門員を対象として、プロジェクト活動の評価と今後の展望、日頃の支援活動から見えてきた「地域の課題」、次年度重点的に話し合うべき視点などについてアンケートを実施しました。

相談支援部会におけるこれまでの活動の評価や課題を確認すると共に、次年度にどのような活動を行うべきか方向性を共有することが出来ました。

○発達障害部会

地域課題に対する行動計画に基づき、ライフステージに応じた多分野多職種との連携により、発達障害児者及びご家族に対する切れ目ない支援体制の構築支援の充実を目指し活動しました。

【地域課題に対する具体的な行動計画】

1. 切れ目のない相談支援体制の強化

幼児期から学齢期、成人期へとライフステージ移行する中で、各分野が必要な情報を共有出来る連携の仕組みづくりに向けて、部会構成員や相談支援事業所の方々と情報交換の場(8/26)を持ちました。また、情報交換会でのご意見や「やまがたサポートファイルに関する保護者アンケート調査結果」を基に、行政との意見交換会を行い課題や今後の方向性について確認しました。



2.障害理解の啓発活動

令和7年7月11日(土)、「障害理解啓発・差別解消研修会」を開催しました。

株式会社おめめどう 奥平綾子様をお迎えし、「今日からできる合理的配慮・支援のコツおめめどうセミナー」と題し、約120名の方にご参加いただきました。

3.専門的人材育成

・発達に不安がある子どもの特性理解と子育て支援として、幼児期から学齢期におけるペアレント・トレーニング連続講座を複数開催し、保護者のニーズに対応しました。

幼児期から小学校低学年向け(全6回)では、合同会社ハウスカ 佐藤広明様を講師に迎え9名の保護者様にご参加いただきました。

小学1年生から4年生向け(全5回)では、県立こころの医療センター 公認心理主査木村智則様を講師に迎え、12名の保護者様にご参加いただきました。

・講座や支援について、持続可能な体制構築に向け人材育成と体制整備を行うために、関係機関と意見交換会を行いました。

・合同会社ハウスカ 佐藤広明様を講師に迎え、ペアレント・トレーニングの意義を広く周知するための講演会を開催し、地域における理解促進を図りました。

4.成人期のサポート

発達障害やその疑い、発達特性によって生じている仕事、生活、日中活動についての相談をお受けする「発達相談会」を、多機能型事業所いちほの協力を得ながら定期的で開催しました。



○しごと部会

しごと部会では、障害や特性がある方の仕事や就労支援に携わる、市内の相談支援事業所、就労支援事業所、学校、企業等の関係機関との連携を図り、支援の現状や諸課題について共有し、就労系事業所間のネットワーク構築と強化、事業運営の向上、障がい者雇用を促進するための制度周知や企業理解の浸透などを目標とした活動を行っています。

就労系事業所を対象として、事業所間のネットワーク構築や支払い工賃・給与の向上と事業所運営の改善を目的とした活動を実施しており、「プロジェクトチーム」では、ハローワークや特別支援学校、就労移行支援事業所等を構成員として、障害や働きづらさを抱える方の就業や就労、職場定着を目的に活動を進めています。

令和7年度の活動として、就労系事業所間で課題を共有し、各々のスキルアップを目的とした研修会や、中学校・高等学校の担当者と企業を交えた情報交換会を実施しました。

また、就労系事業所の運営や業務の改善を目的として、山形県よろず支援拠点の協力のもと、事業所運営個別相談会を令和6年度から引き続き実施しています。

令和7年10月から、新しい就労支援として「就労選択支援事業」がスタートしています。「働き方」や「しごと」について、適切なアセスメントと評価に基づいて選択を行い進めることによって、働きたい人の希望と、働く仕事のマッチングを図るとともに、将来の自分、将来の生活について、より明確なイメージを描くことができるようになるものと思います。

今後も当部会では、障害や特性によって働き辛さを抱えている方の「しごと」に関する課題について検討し、必要に応じて関係機関に提起すること、活動を通じて地域との連携と協働を進めていきたいと考えております。(写真:5/29、中学校・高等学校との情報交換会の様子)



○広報企画班

広報企画班は、鶴岡市障害者地域自立支援協議会の活動を広く周知するとともに、障がいのある方、そのご家族が各種サービスや支援、相談窓口等の必要な情報を得ることが出来るよう情報発信を行っています。また、協議会の各部会と連動しながら研修会等を開催しました。

1) 自立支援協議会の活動内容の周知

各部会の取り組みや自立支援協議会の活動について年2回(9月・3月)広報誌を発行しました。また、今年度より鶴岡市障害者相談支援センターのFacebookに加え、Instagramアカウントも開設し協議会等が開催する研修会や取り組みについて発信を行いました。

今後も市民の皆様が情報を受け取りやすい体制の検討と構築を行います。

2) 情報発信の仕組みづくりと整備

毎年更新・発行を行っている「日中活動系障害福祉サービス事業所ガイドブック」・「子ども版障害福祉のしおり」・「児童発達支援・放課後等デイサービスガイドブック」の今年度版を発行しました。各ガイドブック・しおりは市ホームページにも掲載されていますので、ぜひご活用ください。

3) 関係機関とのネットワーク構築と市民への理解啓発

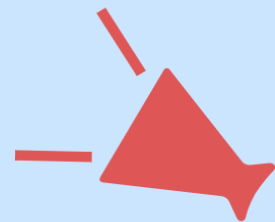
医療的ケアが必要なお子さんやその家族への適切な支援の充実を図るため、医ケア児の保護者を対象とした研修・情報交換会(12/11)を開催しました。今年度は初めて山形県立鶴岡養護学校と協働で開催し、関係機関同士の情報共有の場としての役割を担うことが出来ました。

4) 社会資源の把握

共同生活援助空き情報を随時更新し、相談支援事業所や病院等と共有することで、地域の社会資源情報を共有しています。

Information

各種ガイドブック等 更新しました！



鶴岡市障害者地域自立支援協議会では、主に障がいのあるお子さんをお持ちの保護者向けに下記ガイドブック、しおりの内容を毎年更新し、発行しています。

「児童発達支援・放課後等デイサービスガイドブック」は、市内障害児通所施設の詳しい内容について紹介しており、また、「子ども版障害福祉のしおり」は、お子さんのライフステージに応じて利用できる各種福祉サービスの内容等について紹介しています。

下記のQRコードからご覧いただけますので、ぜひともご活用ください。

(※ダウンロードされる場合は、ファイルのデータ量が大きいためご注意ください。)

児童発達支援・放課後等
デイサービスガイドブック



子ども版障害福祉のしおり



相談支援部会では、相談支援事業所の一覧を掲載したパンフレットを作成しております。このパンフレットに掲載している相談支援事業所は、障害あるお子さんや障害のある方が障害福祉サービスを利用する際に必要な「サービス等利用計画」を作成する、計画相談を担うことができる事業所です。

計13事業所の情報を掲載しておりますので、こちらもぜひご活用ください。



相談支援事業所パンフレット



有限会社アムザ 訪問看護ステーションアムザ酒田 土田 彩加様

～想いをつなぐ！～
日々の事業展開で思う
こと、部会・個別支援会
議に参加して感じたこ
と、今後生かしていきたい
ことなどを寄せていた
だくコーナーです。

私たちは相談支援、訪問看護、身元保証の3つの柱で庄内地域に様々な理由で生活に困難を抱えている方へワンストップのサポートが出来るグループです。

サポートセンターかがやき

今年の2月にオープンしたばかりの新しい相談支援事業所です。庄内全域を対象としており、看護師と管理栄養士の資格を持つ相談支援専門員2名体制で運営しております。

医療の専門知識に基づく病状の理解はもちろん、食と栄養の視点からも具体的なアドバイスが可能です。生活の根幹に関わる不安に専門職が直接お応えし、新しい事業所ならではの機動力で、サポートしてまいります。

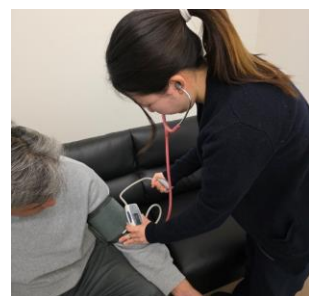
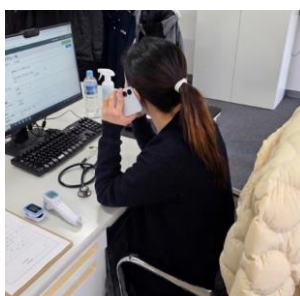
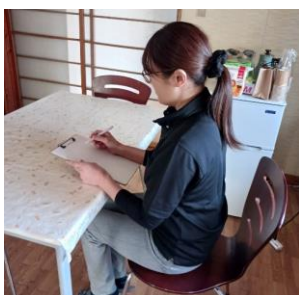
訪問看護ステーションアムザ酒田

精神科訪問看護を軸に、お一人おひとりの心に寄り添うことを大切に訪問看護を行っております。ご自宅に他人を招く不安に配慮し、まずはゆっくりとお話を聞くことから始め、本音で話せる関係になるまで歩幅を合わせて関わり続けます。「どんな人が来るの?」という戸惑いには事前の無料相談でお応えし、安心をご納得に変えてからスタートできるよう工夫しています。また、医療的なケアだけでなく、作業所などへの送り出し支援、通院の同行、自立支援医療の手続き代行など、日々の生活を支える実務的なサポートも充実しています。

山形身元保証センター

現代社会において、一人暮らしの高齢者や障がいのある方々が直面する最も高い壁の一つが「身元保証人」の不在です。家族や親族が遠方に住んでいたり、頼れる身内がない場合、病院への入院や介護施設への入所、さらには民間アパートの賃貸契約すら困難になることがあります。山形身元保証センターは、こうした「家族が担ってきた役割」を契約に基づき、サポートしていきます。日本全国でもまだ身元保証事業をしている会社は少ないですが、何かご不明なことがあればお気軽にご連絡ください。

私たちの支援の特徴としてワンストップでサポート出来ることを強みと感じております。例えば相談支援と身元保証を組み合わせることでご利用いただくことで障がいのある方がアパートで一人暮らしをする時、サービス利用計画を相談支援で作成し、何かあった際の駆けつけは山形身元保証センターでフォローアップができます。医療が必要な方には訪問看護で定期的に入ることでご利用者さんのちょっとした変化に気づき情報共有を迅速に行うことができます。私たちは、障がいの有無や身寄りの有無にかかわらず、誰もが住み慣れた庄内の地で、安心をして在宅生活を続けられるように精一杯サポートしてまいります。





令和**8**年**3**月発行
発行元：鶴岡市障害者地域自立支援協議会